令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立富士見台中学校

国　語

7年	(1)定着状況の概要 目標値、区平均、全国平均を上回った。 (2)具体的な課題 「文法・語句に関する事項」、「説明的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」問題で、それぞれ正答率が下回っている項目がある。 (3)課題の原因として考えられること 小学校で学習した内容が定着していない。また、文章の情報を整理したり、自分の考えが伝わるように工夫したりすることに課題がある。 (4)課題解決のための方策 「文法・語句に関する事項」に関しては、何度も繰り返し扱い、定着を図っていく。また、「説明的な文章の内容を読み取る」、「文章を書く」力に関しては、授業内で丁寧に文章を読み取らせたうえで、自分の考えや意見をまとめる課題を繰り返し設定して力を培わせていく。
8年	(1)定着状況の概要 目標値および全国平均を上回り、区平均はやや下回った。 (2)具体的な課題 「漢字を書く」問題では、３題とも目標値に対して大幅に下回った。 「単語の理解」に関する文法問題では、目標値に対して大幅に下回った。 (3)課題の原因として考えられること 漢字の書きは３題とも小学校で学習した内容であったため、小学校からの積み重ねが不十分であると考えられる。 文法に関しては昨年度から課題に挙げており、苦手意識をもっている生徒が多く学習の定着が不十分であることがうかがえる。 (4)課題解決のための方策 漢字は今年度から教科書の学習単元にリンクしたテキストを使用するようになり、着実に成果が上がってきているので小学校レベルの漢字も含め復習内容にも注力していく。 文法は理解度が高まるように誤用しやすいポイントなどを具体的に学習するようにする。
9年	(1)定着状況の概要 目標値、区平均、全国平均を大きく上回った。 特に「文章を書く」の分野では、目標値、区平均、全国平均を大幅に上回った。毎単元のまとめで論作文を書いたり、毎定期考査で 200 字論作文を出題したりしていることが、着実に「書く力」の向上につながっていると考えられる。 (2)具体的な課題 「発表の内容を聞き取る」問題では、目標値に対して大きく下回った。 「敬語の理解」に関する文法問題では、目標値に対して大きく下回った。 (3)課題の原因として考えられること 「聞き取り」に関する学習は、昨年度「聞き取りテスト」を１回実施しただけであり、積み重ねが不十分であることが原因として考えられる。 「敬語」の学習は、本校で使用している文法のテキストの単元構成上 9 年次に実施する計画になっていたため、未習熟の状態であり理解が不十分であったことが原因として考えられる。 (4)課題解決のための方策 「話す・聞く」の分野では、スピーチやプレゼンテーションを互いに評価し合うことで「聞く力」も養っているが、「聞き取る力」も養える学習を取り入れるようにする。 「文法」は昨年度も課題に挙がったので重点的に学習を行ってきたが、未習熟の内容に関しては入試までに確実に学習できるように授業を進めていく。

社　会

７年	(1)定着状況の概要 目標値をわずかに上回っている。区の結果よりわずかに下回っている。 (2)具体的な課題 全体の正答率は目標値を上回っているが、基礎問題の正答率が目標値よりわずかに下回っている。歴史では、時代によって正答率のばらつきがある。 (3)課題の原因として考えられること 興味のある分野は意欲的に学び、そうでないところはあまり力を入れられなかったのではないかと考える。 (4)課題解決のための方策 歴史では、どの時代でも興味を持って取り組めるように授業の工夫をする。引き続き知識の定着を継続するために、こまめに確認テストを実施する。
８年	(1)定着状況の概要 目標値より下回っている。特に基礎問題、思考・判断・表現の分野で下回っている。 (2)具体的な課題 地理では「日本の領域」「都道府県の名称と位置」「世界の諸地域」、歴史では「縄文～古墳時代」の正答率が低い。 (3)課題の原因として考えられること 定期的な復習の時間が設けられなかったことが要因と考える。 (4)課題解決のための方策 都道府県名テストなどの小テスト、単元テストを小単元ごとに実施。授業内での資料読み取り・意見交換の場を多く設定する。
９年	(1)定着状況の概要 目標値を大きく上回っている。区・全国と比較しても大きく上回っている。 (2)具体的な課題 地理分野「地域調査の手法」歴史分野「西洋史」の正答率が低い。 (3)課題の原因として考えられること ７年次の範囲であるため知識の忘れが要因と考える。 (4)課題解決のための方策 定期的な知識の復習を取り入れる。

数　学

7年	(1)定着状況の概要 教科の正答率（基礎・活用)、領域別正答率、観点別正答率のすべての点で目標値を上回っている。現状の学習への取組を維持し、より学力を伸ばしていくことが必要である。 (2)具体的な課題 単位量あたりの大きさ、百分率が他の内容と比べて定着率が低い。 (3)課題の原因として考えられること 式や数量が表していることがらを読み取る力が十分に身についていない。 (4)課題解決のための方策 図や表などを活用して可視化するなど、式や数量の表している意味を深く考える習慣をつける。また、その技能を習得する。
8年	(1)定着状況の概要 教科の正答率（基礎・活用)、領域別正答率、観点別正答率のすべての点で目標値を上回っている。現状の学習への取組を維持し、より学力を伸ばしていくことが必要である。 (2)具体的な課題 一次方程式の利用等文章問題の定着率が高い一方、比例・反比例や素因数分解など、知識を元に行う計算の定着率が低かった。 (3)課題の原因として考えられること ワークを繰り返し解く習慣が身に付いておらず、直近で使わない知識が抜けてしまっている。 (4)課題解決のための方策 類似した問題を数多くこなし、問題に対して慣れることと長期記憶として定着することが必要である。
9年	(1)定着状況の概要 教科の正答率、領域別正答率、問題の内容別正答率、観点別正答率で目標値を上回っている。現状の学習への取り組みを維持し、より定着度を高めていくことが必要である。 (2)具体的な課題 問題の内容別正答率では証明が他の内容と比べて定着率が低い。 (3)課題の原因として考えられること 与えられた条件を把握すること、三角形の合同を証明し、結論を導くことの定着が十分でないと考えられる。 (4)課題解決のための方策 図をかくなどして理解度を高める。図形の学習の際などに問題をくり返し解き、与えられた条件を把握できるようにしていく。三角形の合同条件を定着させていく。

理　科

７年	(1)定着状況の概要 目標値、区平均、全国平均をやや下回っている。 (2)具体的な課題 「物質・エネルギー」領域は目標値を大きく上回っている一方、「生命・地球」領域は大きく下回っており、領域による大きな差異が見られる。 (3)課題の原因として考えられること 「動物のからだのつくりとはたらき」、「植物のつくりとはたらき」、「大地のつくりと変化」の単元の理解度が全体的に低い。「動物のからだのつくりとはたらき」と「大地のつくりと変化」の単元においては、基礎の定着が十分ではない。また、「植物のつくりとはたらき」の単元では、実験に関する活用問題の正答率が特に低く、科学的な見方・考え方をはたらかせることに苦手さがあると考えられる。 (4)課題解決のための方策 これまでに学習したことを振り返る機会を多くとり入れ、知識の定着を図る。また、実験方法を考えたり、考察したりする時間を十分にとり、科学的な見方・考え方を育成する。
８年	(1)定着状況の概要 目標値、区平均、全国平均を下回っている。 (2)具体的な課題 「エネルギー」と「生命」の領域の正答率が目標値、区平均、全国平均を大きく下回っており、大きな課題となっている。 (3)課題の原因として考えられること 「植物の分類」や「力の性質」の単元の理解度が全体的に低い。種子をつくらない植物の特徴、単子葉類・双子葉類の特徴、力の表し方といった基礎の定着が十分ではない。特に「力の性質」の単元は、多くの生徒にとって苦手なものとなっている。 (4)課題解決のための方策 学習したことを振り返る機会を多くとり入れ、知識の定着を図る。また、７年生で定着が十分でない内容について、長期休業を利用して復習をさせる。
９年	(1)定着状況の概要 目標値、区平均・全国平均を上回っている。 (2)具体的な課題 「エネルギー」の領域は目標値より大きく上回っている一方で、「生命」の領域が目標値より下回っていることが課題である。 (3)課題の原因として考えられること 「生命」の領域では、「植物のからだのつくりとはたらき」や「動物のからだのつくりとはたらき」では目標値と同程度であるのに対し、「生物と細胞」については目標値より大きく下回っていることから、「生物と細胞」について定着が不十分であったと考えられる。 (4)課題解決のための方策 ９年の学習内容を進めながら、７、８年の内容を振り返る機会を取り入れる。また、長期休業を利用して、７、８年の内容を定着させる。

英　語

7年	(1)定着状況の概要 目標値、全国正答率、領域別正答率に対して、全ての正答率が上回っている。 (2)具体的な課題 問題の内容別正答率では、「単語や表現の意味理解（聞く）」が区平均に届いていない。 (3)課題の原因として考えられること 小学校で学んだ「身近で簡単な語句や表現（教科名、学校の施設、日課、日付、人物）」の定着が不十分である。 (4)課題解決のための方策 「聞く、読む、書く」の手順を踏み、語句や表現を定着させる。
8年	(1)定着状況の概要 目標値、全国正答率、領域別正答率に対して、全ての正答率が上回っている。 (2)具体的な課題 問題の内容別正答率では、「リスニング（さまざまな英文の聞き取り）」、「さまざまな英文の読み取り」、「長文の読み取り」が、区平均に届いていない。 (3)課題の原因として考えられること 対話文やガイドブックを読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して適切な箇所を判断する力が不足している。指示語が示す内容を理解する力も不足している。 (4)課題解決のための方策 授業においてインプット（聞く・読む）の活動量を増やし、活動から得た内容を使って「やり取り」や「発表」に発展させる。
9年	(1)定着状況の概要 目標値、全国正答率、区正答率、領域別正答率に対して、全ての正答率が大きく上回っている。 (2)具体的な課題 問題の内容別正答率では、「場面に応じて書く英作文」が区平均を上回ったが、目標値には届いていない。 (3)課題の原因として考えられること 場面にあった疑問文、丁寧な表現を用いて許可をとる質問文についての正しい理解が定着していない可能性がある。対話の内容や流れを読解し、話し手が伝えたいことを理解する力が不足している。 (4)課題解決のための方策 年間を通して多くの文章や問題形式に触れる機会を増やし、読解力をもとに、発信する力を養う。 Reading → Output(Speaking, Writing)　向上の手だてを増やして指導する。